



NPO PTPL “ともいき” 便り No.41

■大雪（たいせつ）12月7日から21日までの節気（2013年12月7日発行）

節気は「大雪」。ともいき暦によると、「平地でも霜が降り、すっかり冬景色となる。枯れ葉が木枯らしに舞う頃」とあります。「木枯らし」は「秋から冬にかけて吹く強く冷たい風」（広辞苑より）。「凧」とも書きます。強風の日、愛犬と雑木林を散歩をしていたら、風がヒューヒュー音をたてて、枯れ葉を雨粒のように空中に吹き飛ばしていました。その中に立ち止まっていたら、なんだかとても淋しい気持ちになりました。冬、それも夕暮れ時は特に淋しい。

‘淋しい’といえ、先日の電車の中での出来事です。一人の若者が優先席付近でタブレットをいじっていました。優先席に座っていた男性が、その若者に「すいませんが、タブレットしまってください」といいました。若者は無視してなにも答えません。男性が何度も繰り返して「やめてください」というと、突然、「うるせえ。じじい」という大きな若者の声と、「暴力は止めてください」と言う男性の声が聞こえました。若者は「お前がおりろ。ばか。すわって、ねてる」と汚い言葉を吐きました。私は少し離れた所にいたのですが、次の駅でおりました男性を、若者がおいかけていくのが見えました。その後のことはわかりません。短いやりとりでしたが怖く感じました。車内には携帯やスマホをいじっている人、タブレットを開いている人がたくさんいましたが、そんな会話が聞こえても、やめる人はいませんでした。電車の中にも、木枯しが吹いているようで、一抹の淋しさを感じました。

さて「和食・日本人の伝統的な食文化」が、ユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録されることが決まりました。日本では歌舞伎や能楽などに続いて22品目め。政府のユネスコへの提案では①自然を尊重する日本人の精神を体現した食に関する社会的慣習 ②新鮮で多様な食材と持ち味の尊重 ③栄養バランスに優れた健康的な食生活 ④自然の美しさや季節の移ろいの表

現 ⑤正月など年中行事との密接な関わりを挙げています。私は和食が大好きなのでうれしいです。でも外国に和食をひろめる機会になる、というよりもむしろ、日本人の日常の食生活に和食文化を再生させて、若い人たちに継承してもらう良い機会になればいいなと思います。保育園の先生に聞いた話ですが、朝食を食べてこない子やケーキを食べてくる子があるので、10時におやつの間をもうけたそうです。「和食」云々の前に、まずはパン1枚でもいいから朝食を食べさせて園に送り出してほしいものです。また、今の日本は「旬」の食材がわかりにくくなっています。「旬」を食卓に出したいと思っても意識してお買い物にいかないといけません。お正月の「おせち料理」も食材の一つひとつにおめでたい意味があります。かまぼこは、初日の出の形を模していたり、数の子は子孫繁栄、海老は長寿……などなど。知っている人はどのくらいいるでしょう。ぜひお正月に、子どもたちに教えてあげてください。

せわしくも気持ちが弾む年の瀬。12月17日から19日は浅草寺の羽子板市。21日は納めの大師（おさめのたいし）。その年最後の弘法大師の縁日で「終い弘法」（しまいこうぼう）などともいいます。商売繁盛を祈願して熊手やだるまなどの市がでます。

（詳しくはともいき暦へ。<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2013/>）

冷たい木枯しが吹いても、♪サザンカ、サザンカ、咲いた道♪ 童謡の中の景色に出会うと、なんだかほっとしてうれしくなります。寒さに向かいますが、ぽっ、ぽっ、灯りがともるようなあたたかな出来事に出会えますように。

文：すとうあさえ（NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事）

■ ともいき・ともうみ雑感彼是

日本列島弧の誕生

太古、ユーラシア大陸の東の端にあり、太平洋に面していた陸地部分が、ユーラシアプレート・北米プレート・太平洋プレート・フィリピン海プレートと活断層による地殻変動によって、ユーラシア大陸から徐々に離れていき、海に囲まれた独立した日本列島弧が出来上がりました。

ユーラシア大陸の東に浮かぶ「海の国・島の国・川の国・森の国」日本。に

なった時、日本の風土、そして日本の文化なるものの性格はある程度決定づけられたといえるでしょう。

自然の豊かな日本列島弧で、人間の側から一方的に自然を見るのではなく、人間も自然の一部であるという観念のもと、自然の大きな、大きな回帰循環する時間の中で生きるということを「生活の知恵」とした祖先は、日本列島弧の「万物が気候に応じて変化するありさま」を勝れた五感でとらえ、季節の微妙な変化を生活に採り入れ、豊かで、きめ細やかな文化を形成してきました。

同時に、自然の厳しき、恐ろしきと自然の豊かな恵みとやさしさの同居する日本列島弧に住む祖先は、自然への畏怖・畏敬の念を持ち、それは自ずから祈りと感謝となり、自然と調和、融合し、生きていくという価値観、生活観を早くから感知したのです。

一方、われわれの祖先は、ユーラシア大陸という母胎から離された故に、母胎の文化を、ふるさとの文化を希求し続けたのではないのでしょうか。母胎の文化、ふるさとの文化を採り入れ、融和、和合し、長い時間をかけて日本化して全く新しい独自の文化を創り上げてきました。

日本人の精神的基盤、「目に見えないジャパネスク」つまり「ともいき」と「ともうみ」が日本独自の、数多くの形のあるモノ・コト・文化、つまり「目に見えるジャパネスク」を創り上げてきたのです。

●敬神崇祖

ジャパネスク



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

●今回の本文を書いている NPO PTPL 理事のすとうあさえさんの新しい絵本が出版されました。タイトルは「はしれ、ディーゼルきかんしゃ デーデ」(出版：童心社)。この絵本は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災に際し、一日も早く燃料を新潟から磐越西線を通して、福島へ運ぼうと頑張る 3 台のディーゼル機関車の雄々しく、美しく、感動的な物語です。

この絵本を 3 名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、下記の事務局までお申し込みください。応募者多数の場合は、抽選で、発送を持って発表にかえさせていただきます。

締切は 2014 年 1 月 15 日 (水) です。



●事務所移転のお知らせ

本年 6 月に現在の赤坂に移転しましたが、現在の事務所は再開発地域であり、12 月には新たな事務所に移転することを条件に借りていました。12 月中旬には新たな場所に移転します。詳細は次号 (No42: 冬至号) にてご案内いたします。

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-6-6 第 2 井上ビル 3 階
電話：電話：03-6277-7458 FAX：03-6277-7459
Email：info@plantatree.gr.jp